

平成 18 年度

掛之上遺跡51・54・55

写真図版編一

2007

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

平成18年度

掛之上遺跡51・54・55

－写真図版編－

2007

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

例 言

1. 本書は、平成18年度に袋井市教育委員会と袋井市役所都市建設部区画整理課が実施した、掛之上^{かけのうえ}遺跡の第51・54・55次・56次北区発掘調査報告書写真図版編（まち支援交付金区画道路予算分報告書）である。なお、第55次調査区については一部民地造成部分を含むが、調査区が一体化しているため本書に含めて報告した。
2. 本発掘調査は袋井市教育委員会松井一明を発掘調査の担当者として実施した。
3. 本調査に係る事務については、袋井市役所都市建設部区画整理課公共施工係が行った。特に、公共施工係の久永豊彦、小池恵子、杉山資治、藤原資郎、大澤勇人、松井健尋の各氏には、現場と事務に関して円滑な調整をして頂いた。ここに記して感謝いたします。
4. 本書の編集は松井が行った。
5. 本書に使用した現場写真のうち、空中全景写真については株式会社フジヤマが撮影したものを、その他遺構個別写真については松井が撮影したものを使用した。
6. 本調査で得た資料については、すべて袋井市教育委員会が保管している。

写真図版目次

- 巻頭カラー図版1 (1) 第51次西・東発掘調査区空中写真全景
(2) 第51次西・東発掘調査区空中写真全景
- 巻頭カラー図版2 (1) 第51次西発掘調査区空中写真全景
(2) 第51次東発掘調査区空中写真全景
- 巻頭カラー図版3 (1) 第51次東発掘調査区S B36 (2) 第54次南発掘調査区空中写真全景
- 巻頭カラー図版4 (1) 第54次北発掘調査区空中写真全景
(2) 第55次発掘調査区空中写真全景
- 巻頭カラー図版5 (1) 第55次発掘調査区S D34・39 (2) 第55次発掘調査区方形周溝墓群
- 図版1 (1) 第51次発掘調査区空中写真遠景 (2) 第51次東発掘調査区空中写真全景
- 図版2 (1) 第51次東発掘調査区空中写真全景 (2) 第51次東発掘調査区全景
- 図版3 (1) 第51次西発掘調査区空中写真全景 (2) 第51次西発掘調査区空中写真全景
- 図版4 (1) 第51次西発掘調査区全景 (2) 東区S B36
- 図版5 (1) 東区S B36 (2) 東区S B36
- 図版6 (1) 東区S B36 (2) 東区S E1
- 図版7 (1) 東区S K144 (2) 東区S K145
- 図版8 (1) 東区S K117・119 (2) 東区S K118
- 図版9 (1) 東区S K120 (2) 東区S D26
- 図版10 (1) 東区S D26内コーナー部分 (2) 東区S D26内土坑
- 図版11 (1) 東区S D26土層 (2) 東区S D56
- 図版12 (1) 東区S D57 (2) 東区焼土小穴
- 図版13 (1) 西区S B11 (2) 西区S B11炉跡
- 図版14 (1) 西区S B12 (2) 西区S B14~16
- 図版15 (1) 西区S B13 (2) 西区S B14
- 図版16 (1) 西区S B15 (2) 西区S B15炉跡
- 図版17 (1) 西区S B16 (2) 西区S B16
- 図版18 (1) 西区S B13付近柱穴群 (2) 西区S D14・15
- 図版19 (1) 西区S D16 (2) 西区S D16土層
- 図版20 (1) 西区S D15・17 (2) 西区S K26
- 図版21 (1) 西区S K29 (2) 西区S K30
- 図版22 (1) 西区S K32 (2) 東区南壁中央部分土層
- 図版23 (1) 西区西壁中央部分土層 (2) 東区の重機による表土掘削作業
- 図版24 (1) 人力による作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影と測量作業風景
- 図版25 (1) 第54次南発掘調査区空中写真全景 (2) 第54次南発掘調査区空中写真全景
- 図版26 (1) 第54次南発掘調査区全景 (2) 第54次北発掘調査区空中写真全景
- 図版27 (1) 第54次北発掘調査区空中写真全景 (2) 第54次北発掘調査区全景
- 図版28 (1) 南区S Z8 (2) 南区S K44
- 図版29 (1) 南区S K44出土土器 (2) 南区S D21
- 図版30 (1) 南区S D21出土土器 (2) 南区S D21土層

- 図版31 (1) 南区SK43 (2) 南区SK45
- 図版32 (1) 北区SB11 (2) 北区SB11かまど
- 図版33 (1) 北区SB11貯蔵穴 (2) 北区SB12
- 図版34 (1) 北区SB12炉跡 (2) 北区SB12付近柱穴群
- 図版35 (1) 北区SZ8西溝 (2) 北区SZ9
- 図版36 (1) SD7 (2) SK47
- 図版37 (1) SK48 (2) 北区西壁中央土層
- 図版38 (1) 人力による作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影と測量作業風景
- 図版39 (1) 第55次発掘調査区空中写真全景 (2) 第55次発掘調査区空中写真全景
- 図版40 (1) 第55次発掘調査区空中写真全景 (2) 第55次発掘調査区空中写真全景
- 図版41 (1) 第55次発掘調査区全景 (2) SB3
- 図版42 (1) SB3 (2) SB3かまど
- 図版43 (1) SB3かまど付近出土土器 (2) SB3貯蔵穴
- 図版44 (1) SB4 (2) SB4
- 図版45 (1) SB4かまど (2) SB4かまど出土土器
- 図版46 (1) SB4貯蔵穴 (2) SB4出土土器
- 図版47 (1) SB5 (2) SB6
- 図版48 (1) SB7 (2) SD34・39
- 図版49 (1) SD34・39 (2) SD34・39
- 図版50 (1) SD34・39陸橋部 (2) 方形周溝墓群
- 図版51 (1) 方形周溝墓群 (2) SZ5
- 図版52 (1) SZ5北溝土層 (2) SZ5南溝土層
- 図版53 (1) SZ5西溝土層 (2) SZ5南溝
- 図版54 (1) SZ5南溝内土坑 (2) SZ5東溝内土坑
- 図版55 (1) SZ5西溝焼土 (2) SZ5南溝出土土器
- 図版56 (1) SZ5南溝出土土器 (2) SZ5南溝出土土器
- 図版57 (1) SZ5南溝出土土器 (2) SZ5南溝出土土器
- 図版58 (1) SZ6 (2) SZ7
- 図版59 (1) SZ7西コーナー部 (2) SZ7西溝土層
- 図版60 (1) SZ7西溝出土土器 (2) SZ7西溝出土土器
- 図版61 (1) SZ7西溝出土土器 (2) SZ8
- 図版62 (1) SZ8 (2) SZ8南溝土層
- 図版63 (1) SZ9 (2) SX1・SD36
- 図版64 (1) SX2 (2) SX2
- 図版65 (1) SD33 (2) SK47
- 図版66 (1) SK52 (2) SK54
- 図版67 (1) SK58 (2) SK59
- 図版68 (1) SP73 (2) SP73出土土器
- 図版69 (1) SP89 (2) 南壁中央部分土層
- 図版70 (1) 重機による表土掘削作業 (2) ラジコンヘリによる写真撮影と測量作業風景
- 図版71 (1) 第56次北発掘調査区空中写真全景 (2) 第56次北発掘調査区空中写真全景
- 図版72 (1) 第56次北発掘調査区全景 (2) SD29

※ 表紙写真 第55次発掘調査区空中写真遠景(手前が掛之上遺跡が立地する段丘、中程の川が原野谷川で、対岸の市街地は江戸時代の袋井宿を含む。南より撮影)

写真図版



(1) 第51次西・東発掘調査区空中写真全景（左側が西区、右側が東区である。南より）



(2) 第51次西・東発掘調査区空中写真全景

(弥生中・後期の竪穴住居や土坑、奈良時代や戦国期の区画溝が検出された。奈良時代の区画溝は都衛正倉院北辺と東辺を区画するもので、北東コーナー付近であると想定される。上が西である。真上より)



(1) 第51次西発掘調査区空中写真全景（手前に弥生中・後期と古墳後期の竪穴住居や柱穴が密集して確認できた。奥の溝は奈良時代の溝で、郡衙正倉院北辺を区画するものである。北より）



(2) 第51次東発掘調査区空中写真全景（右側の縦断の溝は奈良時代の郡衙正倉院東辺の区画溝が検出された。中央の横断の溝は戦国期の館の区画溝と考えられる。南より）



(1) 第51次東発掘調査区 S B36
(弥生後期の竪穴住居で、炉跡や壁溝から見ると最低3回の建替が確認できた。東より)



(2) 第54次南発掘調査区空中写真全景
(弥生後期の方形周溝墓、奈良時代郡衙正倉院北辺の区画溝、江戸期の区画溝が検出された。西より)



(1) 第54次北発掘調査区空中写真全景
(弥生後期の竪穴住居・方形周溝墓、古墳後期の竪穴住居、江戸末期の区画溝が検出された。西より)



(2) 第55次発掘調査区空中写真全景(弥生中期の方形周溝墓、古墳前期の区画溝、古墳後期の竪穴住居、江戸末期～明治時代の区画溝が検出された。南より)



(1) 第55次発掘調査区 S D34・39 (古墳前期の区画溝東辺で、東側に土橋が検出されている。
隣接の調査区では内部に大型掘立柱建物が確認されている。東より)



(2) 第55次発掘調査区 方形周溝墓群
(四隅に陸橋をもつ弥生中期の方形周溝墓が列状をなして連結して群をなしている。南西より)



(1) 第51次発掘調査区空中写真遠景

(右側農協建物を中心として郡衙正倉院が展開する。左端は原野谷川の侵食による段丘崖である。西より)



(2) 第51次東発掘調査区空中写真全景

(全面に弥生中～後期の竪穴住居や柱穴、土坑が全面に見られる。東より)



(1) 第51次東発掘調査区空中写真全景（左側の南北溝は奈良時代郡衙正倉院東辺（S D56）の区画溝である。この溝より西側が正倉院となっている。上が北である。真上より）



(2) 第51次東発掘調査区全景（中央の溝は戦国期と江戸末期の溝が重複したものである。東より）



(1) 第51次西発掘調査区空中写真全景
(全面に弥生中・後期と古墳後期の竪穴住居や柱穴、土坑が全面に見られる。南より)



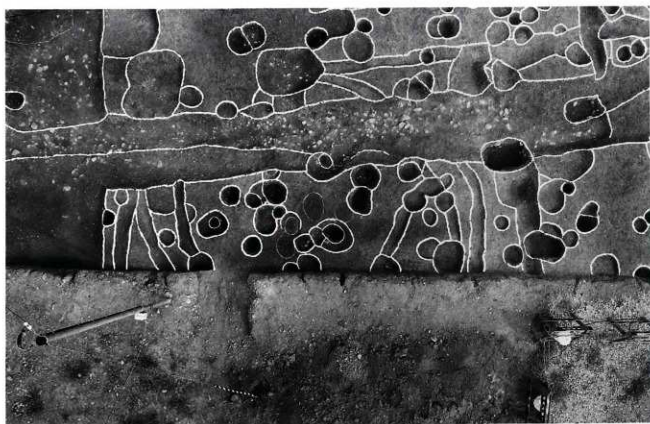
(2) 第51次西発掘調査区空中写真全景
(中央の東西溝は奈良時代都衙正倉院北辺 (SD16) の区画溝である。
この溝より右手が正倉院となっている。上が東である。真上より)



(1) 第51次東発掘調査区全景
(手前の溝は江戸末期の区画溝である。弥生後期の竪穴住居と重複している。南より)



(2) 東区S B36 (弥生後期の竪穴住居で、楕円形のプランとなっている。東より)



(1) 東区S B36

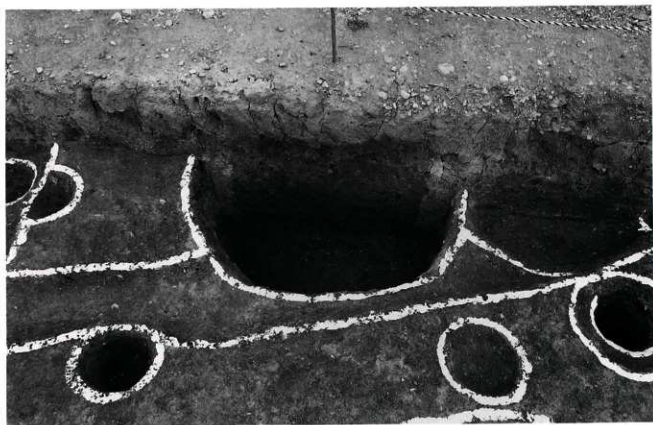
(壁溝からは最低3回の建替が認められた。上部分はS D26により切られている。上が北である。真上より)



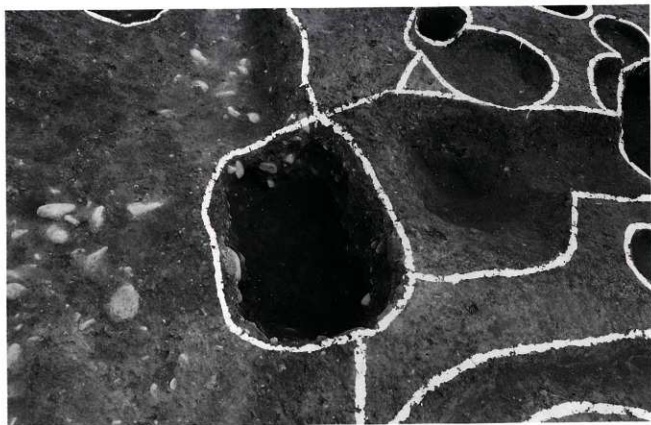
(2) 東区S B36 (北より)



(1) 東区S B36 (炉跡が3箇所認められたが、壁溝との対応関係は不明である。
何れも竪穴住居中央部分で検出され、良く焼けた地床炉であった。南より)



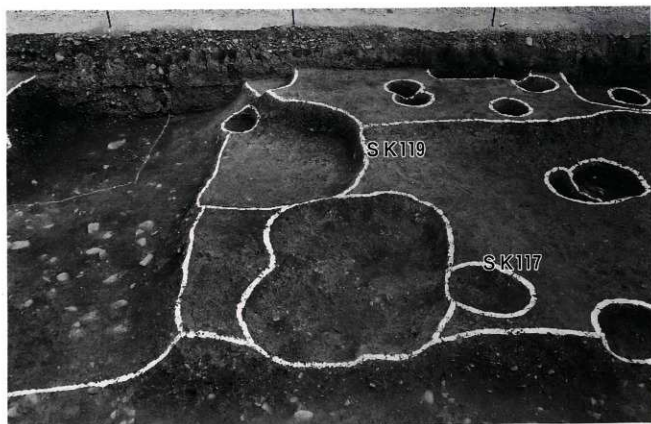
(2) 東区S E1 (江戸末期の礫層掘抜の茶畑の水溜用井戸である。
自然湧水はなく、雨水が湧水となって溜る程度である。全掘できなかったが円形が想定される。南より)



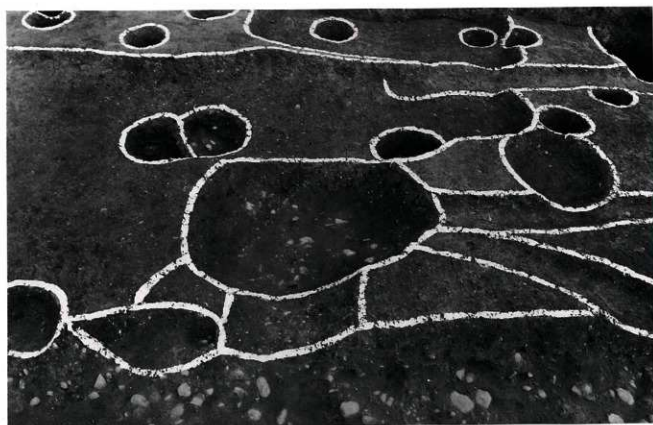
(1) 東区 S K144 (江戸末期の土坑か。西より)



(2) 東区 S K145 (古墳後期の方形土坑か。柱穴も見られるため小型の竪穴住居の可能性もある。南より)



(1) 東区SK117・119(弥生後期の楕円形をなす廃棄用土坑と思われる。南より)



(2) 東区SK118(弥生後期の楕円形をなす廃棄用土坑と思われる。
土坑の場所は堅穴住居の周辺部に集中して分布する傾向が認められた。南より)



(1) 東区SK120

(弥生中期の土器片がまとまって出土した土坑である。手前は江戸末期のSD54により切られている。東より)



(2) 東区SD26(戦国期と江戸末期の溝が重複している。

戦国期で館の区画溝、江戸期では畑地の区画溝の用途が考えられる。東より)



(1) 東区S D26内コーナー部分
(戦国期と江戸末期でも東西方向の溝が南北方向に大きく向きを変える状況が見られる。南東より)



(2) 東区S D26内土坑 (隣接の調査区でも戦国期の溝内土坑が確認されている。
戦国期の溝は流水した様子はないため、水溜用の土坑の可能性がある。西より)



(1) 東区S D26土層
(中央の礫の入る部分が江戸末期の溝部分となり、その両側に戦国期期の土層が残る。東より)



(2) 東区S D56 (ごく小範囲の検出であったが、南北方向で、大型掘立柱建物群とも主軸方向が合うため、奈良時代郡衙正倉院東辺の区画溝になると想定される。南より)



(1) 東区S D57 (江戸末期の南北方向の区画溝である。南より)



(2) 東区焼上小穴 (調査区東端部分で検出された。あまり良く焼けてないが、焼上粒子が埋土でも確認できた。埋土層から見ると弥生後期の時期か。西より)



(1) 西区S B11 (江戸末期の溝に切られて形態は不明であるが、弥生後期の隅丸方形の竪穴住居と思われる。壁溝から見ると最低2回の建替があったと思われる。中央に炉跡が見られる。北より)



(2) 西区S B11炉跡(良く焼けた地床炉である。南より)



(1) 西区SB12 (方形の形態になるため、古墳後期の堅穴住居と思われる。
かまどの位置はSD16により切られている。西より)



(2) 西区SB14~16
(弥生後期 (SB15・18) と古墳後期 (SB16) の堅穴住居が調査区北端で集中して検出された。南より)



(1) 西区SB13

(壁溝が一部しか検出されなかったが、方形プランを示すため古墳後期の竪穴住居になるとされる。南より)



(2) 西区SB14 (壁溝が一部しか検出されなかったが、
隅丸方形プランを示すため弥生後期の竪穴住居になるとされる。南より)



(1) 西区S B15 (全体が確認できていないが、楕円形の弥生中～後期の竪穴住居と思われる。
壁溝から見ると最低4回の建替が確認された。西より)



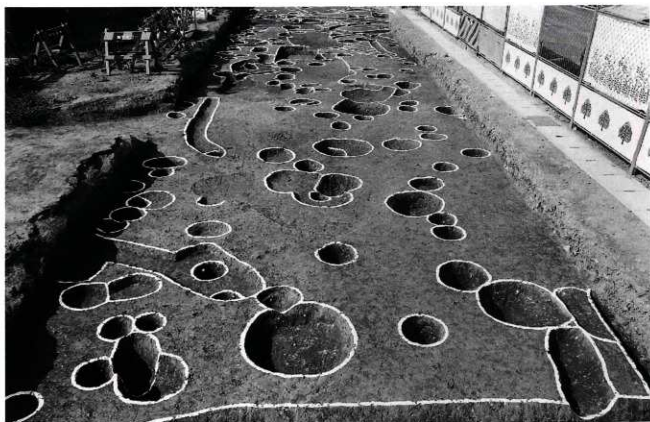
(2) 西区S B15炉跡
(あまり良く焼けていない地床炉である。この住居からは1箇所しか炉跡が確認できていない。西より)



(1) 西区S B16 (古墳後期の方形プランの竪穴住居である。南より)



(2) 西区S B16 (西より)



(1) 西区SB13付近柱穴群

(組み合わせが不明ながら弥生後期の深い柱穴が集中するので、掘立柱建物の存在が想定される。北より)



(2) 西区SD14・15

(江戸末期～明治時代の区画溝である。遺物がほとんど出土しないため畑地の区画溝と思われる。南より)



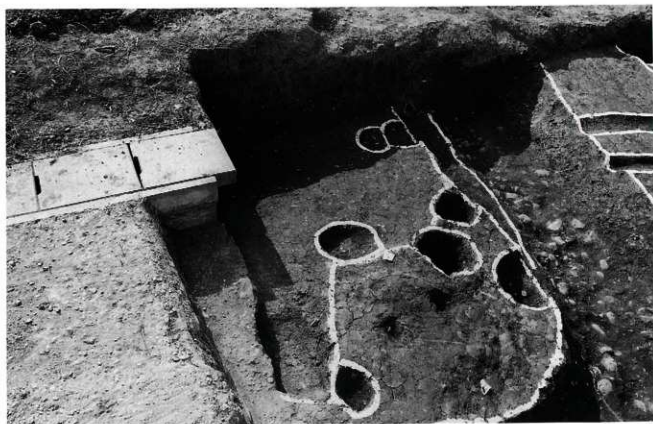
(1) 西区SD16（ごく小範囲の検出であったが、東西方向で、大型掘立柱建物群とも主軸方向が合うため、奈良時代郡衙正倉院北辺の区画溝になると想定される。西より）



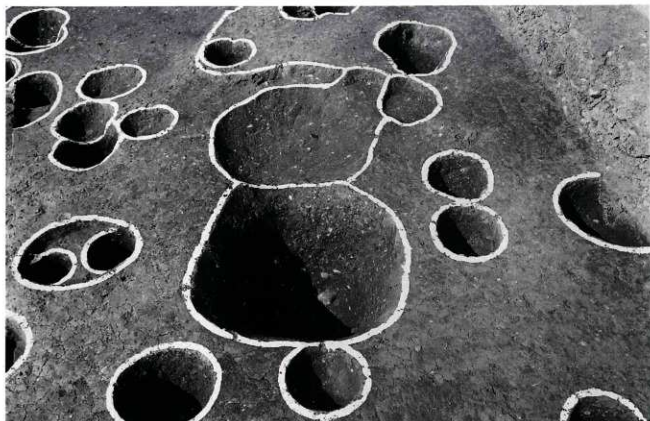
(2) 西区SD16土層（ほとんど攪乱されているが、右側に自然堆積の土層が残る。底は平らである。東より）



(1) 西区SD15・17（江戸末期～明治時代の同一方向を向く区画溝である。
遺物がほとんど出土しないため畑地の区画溝と思われる。西より）

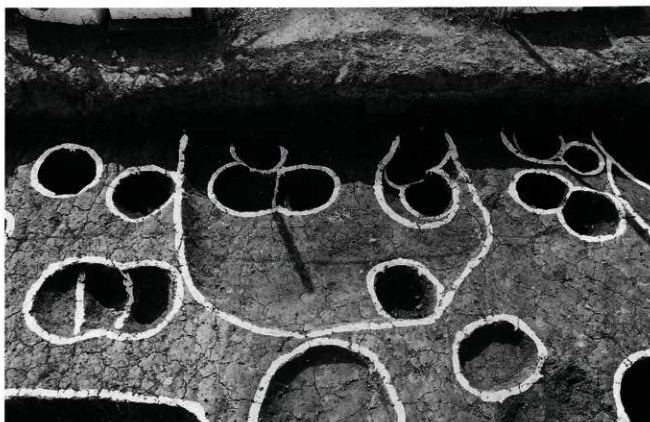


(2) 西区SK26（弥生後期の土坑で、土器片がまとめて棄てられていた。東より）



(1) 西区SK29

(円形で深い土坑のため、古墳後期の竪穴住居(SB17?)入口部に良く見られる貯蔵穴の可能性がある。南より)



(2) 西区SK30

(弥生後期の浅い土坑である。SB15付近に存在するため竪穴住居関連の廃棄土坑となろうか。東より)



(1) 西区SK32

(弥生後期の浅い長楕円大型土坑である。切合関係からはSB15よりも新しい土坑である。南より)



(2) 東区南壁中央部分土層 (厚さ15cmの包含層がごく一部存在していた。北より)



(1) 西区西壁中央部分土層（厚さ30cmの包含層が北半一部に存在していた。東より）



(2) 東区の重機による表土掘削作業
(ほとんど包含層が存在していなかったため、遺構確認面まで掘り下げることができた。)



(1) 人力による作業風景（西区SD16付近の調査である。SD16の規模が分かる。）



(2) ラジコンヘリによる写真撮影と測量作業風景

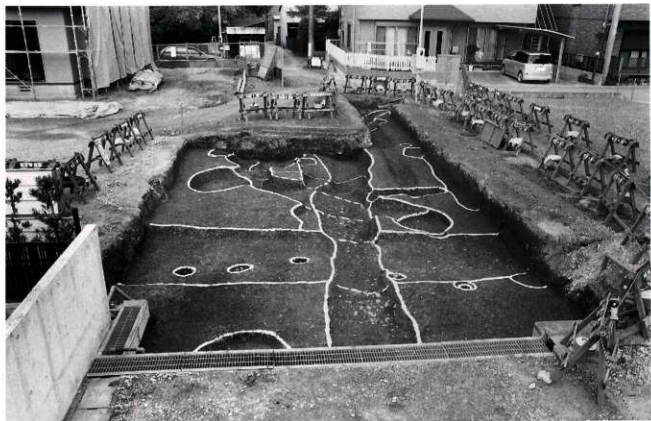


(1) 第54次南発掘調査区空中写真全景

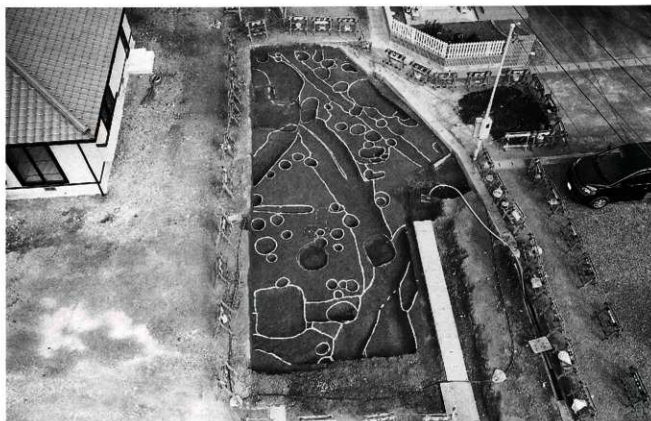
(弥生後期の方形周溝墓、奈良時代の郡衙正倉院の区画溝が検出されている。土坑と柱穴は少ない。南より)



(2) 第54次南発掘調査区空中写真全景 (右側の東西溝は奈良時代郡衙正倉院北辺 (SD21) の区画溝である。この溝より南側が正倉院となっている。上が東である。真上より)



(1) 第54次南発掘調査区全景 (中央の溝は江戸末期の区画溝が重複したものである。南より)



(2) 第54次北発掘調査区空中写真全景

(弥生中・後期の方形周溝墓、全面に弥生後期と古墳後期の竪穴住居や柱穴、土坑が全面に見られる。南より)



(1) 第54次北発掘調査区空中写真全景（中央の南北溝は江戸末期の区画溝である。上が東である。真上より）



(2) 第54次北発掘調査区全景（南より）



(1) 南区SZ8

(弥生後期の方形周溝墓で、四隅に陸橋をもつところと、溝幅を減ずるが接続する場所があるようである。南より)



(2) 南区SK44 (SZ8と一部切り合う土坑である。南より)



(1) 南区SK44出土土器（壺が主体であるが、小型壺も見られる。
No 2～9の壺はほとんど破片になっているが、No 1の小型壺は口縁を欠くだけである。南より）



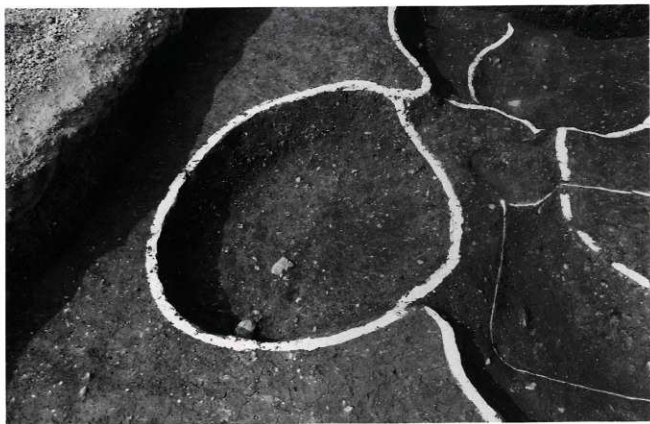
(2) 南区SD21（奈良時代の郡衙正倉院北辺を区画する溝と思われる。底は平らである。東より）



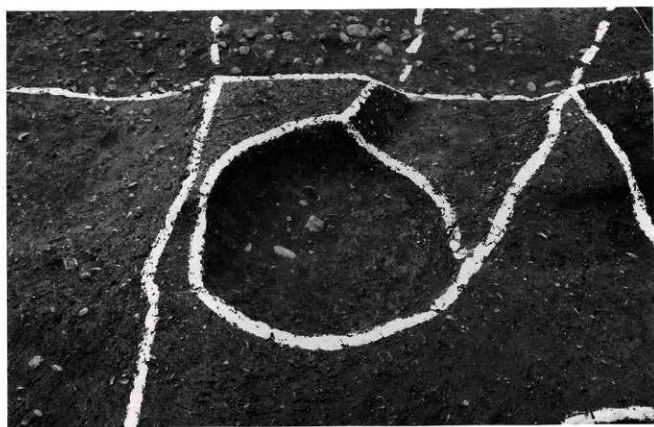
(1) 南区S D21出土土器（7世紀代の甕が底直上で出土した。8世紀前葉の須恵器も出土した。北より）



(2) 南区S D21土層（土層からは自然堆積を示し、改修痕跡は見られなかった。西より。）



(1) 南区 S K 43 (江戸末期の水溜用の円形土坑である。桶の痕跡は確認できなかった。南より)



(2) 南区 S K 45 (江戸末期の水溜用の円形土坑である。桶の痕跡は確認できなかった。東より)

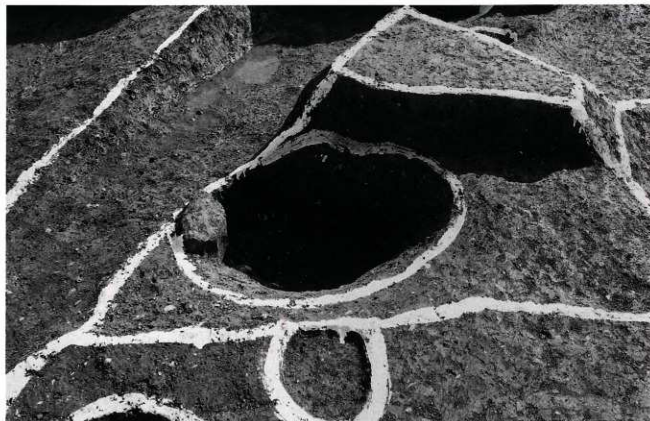


(1) 北区S B11

(古墳後期の竪穴住居である。北壁にかまどの痕跡、南壁入口部分に貯蔵穴が確認できた。東より)



(2) 北区S B11かまど (かまど本体は破壊されており、基底部の焼土などが確認された。南より)



(1) 北区SB11貯蔵穴（南壁の入口部にあるものが多い。北より）



(2) 北区SB12（柱穴と炉跡のみの検出であった。南より）



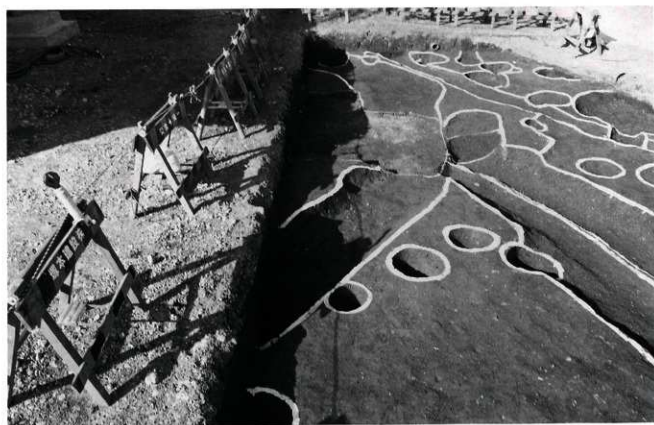
(1) 北区S B12炉跡（あまり良く焼けていない地床炉であった。西より）



(2) 北区S B12付近柱穴群（並ばないが弥生後期～古墳後期の掘立柱建物の存在が考えられる。南東より）



(1) 北区S Z 8西溝 (弥生後期の方形周溝墓で、西溝は再掘削が認められた。南より)



(2) 北区S Z 9

(時期は不明であるが、一隅に陸橋が認められるため弥生中期の方形周溝墓の可能性はある。南より)



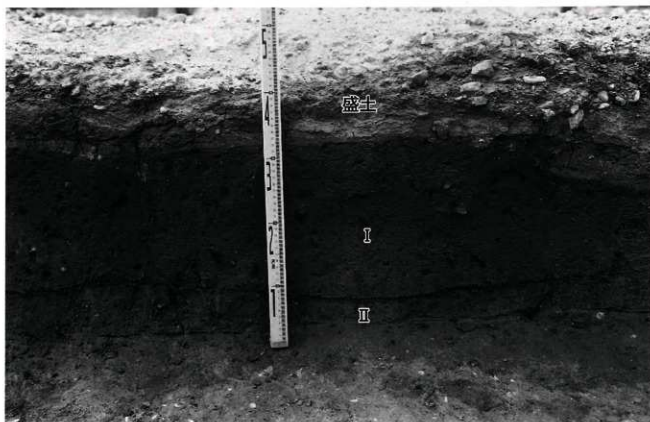
(1) SD7 (江戸末期の区画溝である。やや弧状にのびている。南より)



(2) SK47 (弥生後期の不定形の上坑である。南より)



(1) SK48 (江戸末期の水溜用の方形土坑である。北より)



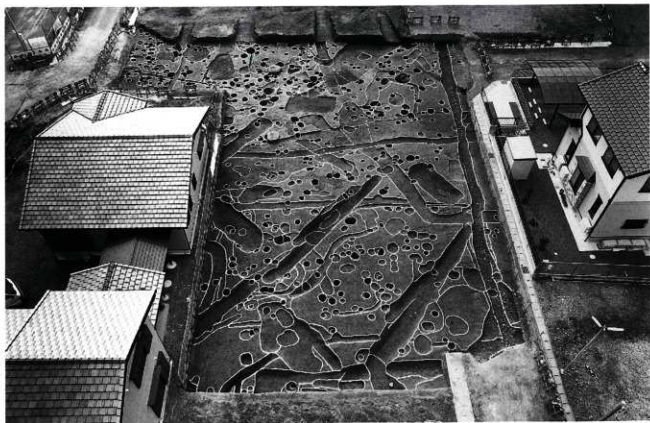
(2) 北区西壁中央土層 (部分的に厚さ8cmの薄い包含層が確認できた。東より)



(1) 人力による作業風景 (S K 44の土器を検出している。)



(2) ラジコンヘリによる写真撮影と測量作業風景



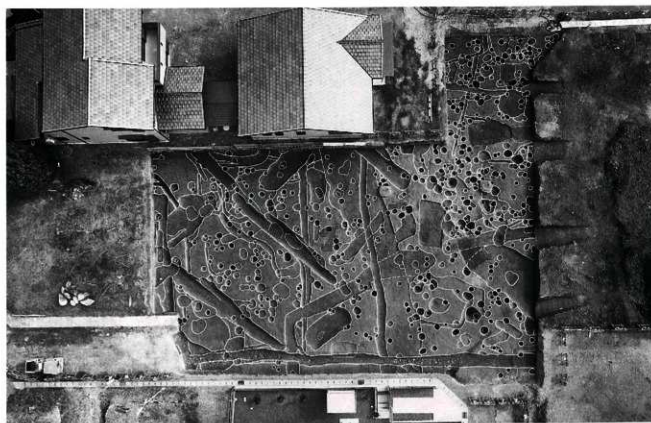
(1) 第55次発掘調査区空中写真全景
(弥生中期の方形周溝墓、古墳前期の区画溝、古墳後期の竪穴住居が発見された。北より)



(2) 第55次発掘調査区空中写真全景
(全面に弥生後期と古墳後期の竪穴住居や土坑が密集して広がっている。北西より)



(1) 第55次発掘調査区空中写真全景（手前の古墳前期の区画溝は東辺に陸橋による出入口が有り、内部には隣接調査区で大型掘立柱建物1棟が検出されている。西より）



(2) 第55次発掘調査区空中写真全景
（左側に方形周溝墓、右側に古墳後期の竪穴住居が存在する。上が東である。真上より）



(1) 第55次発掘調査区全景（南より）



(2) SB3（北壁にかまど、南壁の入口部に貯蔵穴をもつ。南より）



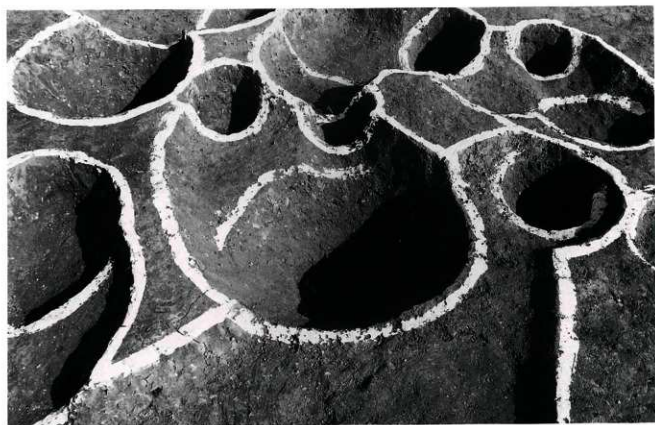
(1) S B 3 (壁溝は一部の検出となったため形態は不明であるが方形プランになると思われる。西より)



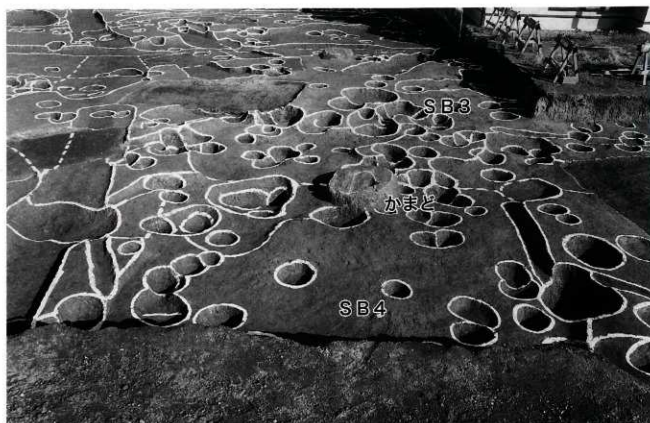
(2) S B 3 かまど (保存状況は良くかまどの構造がよく分かる。煙道は掘込外になるものではない。南より)



(1) SB3 かまど付近出土土器（土師器の坏が東脇より出土した。南より）



(2) SB3 貯蔵穴（円形の深い土坑であり、位置から見てSB3の貯蔵穴と判断した。南より）



(1) SB4 (古墳後期の方形プランの竪穴住居で、北壁にかまどが見られる。南より)



(2) SB4 (北壁に保存のよいかまどが確認された。東より)



(1) SB4かまど (保存が良くかまどの壁体が確認できた。南より)



(2) SB4かまど出土土器 (かまど上部から鍋型土器の破片が出土した。南より)



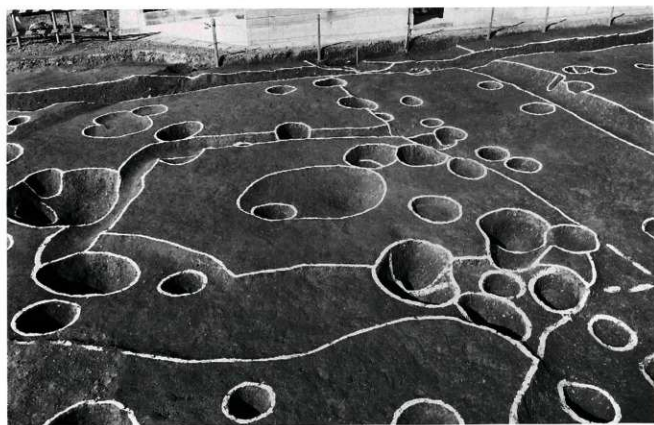
(1) S B 4 貯蔵穴（円形の深い土坑であり、位置から見て貯蔵穴と判断した。北より）



(2) S B 4 出土土器（南壁際出土の須恵器の坏身である。北より）



(1) S B 5 (第51次西調査区のS B 16の西南部分である。古墳後期の方形プランの竪穴住居である。南より)



(2) S B 6 (隅丸方形の竪穴住居の壁溝と考えられる。時期は弥生後期か。東より)



(1) SB7 (隅丸方形の竪穴住居の壁溝と考えられる。時期は弥生後期か。東より)



(2) SD34・39 (古墳前期の方形区画溝東辺の一部と考えられる。
西側に隣接する調査区からも方形区画溝と大型掘立柱建物1棟が確認されている。東より)



(1) SD34・39 (東辺に陸橋の出入口部があることが分かる。上が西である。真上より)



(2) SD34・39 (南より)

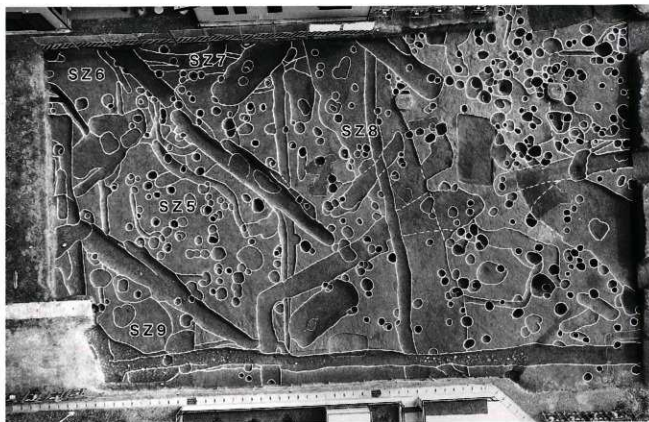


(1) S D34・39陸橋部（奥が区画内部である。東より）



(2) 方形周溝墓群

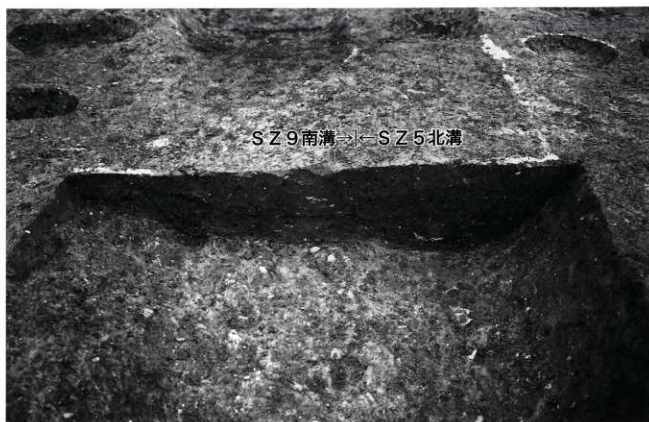
（弥生中期の方形周溝墓群が溝を連結して、列状をなして造墓されていることが分かる。南西より）



(1) 方形周溝墓群 (SZ8のような方形のもののほか、SZ5のような長方形のものも確認できた。
弥生中期の方形周溝墓は四隅に陸橋をもつ形態である。上が東である。真上より)



(2) SZ5 (四隅に陸橋のある弥生中期の方形周溝墓である。南西より)



- (1) SZ5北溝土層（土層からは自然堆積で、方台部よりの盛土の流入は認められない。
SZ9南溝と重複するが、明確な切合関係は確認できない。南西より）



- (2) SZ5南溝土層（土層からは自然堆積で、方台部よりの盛土の流入は認められない。
SZ8北溝と重複するが、明確な切合関係は確認できない。南西より）



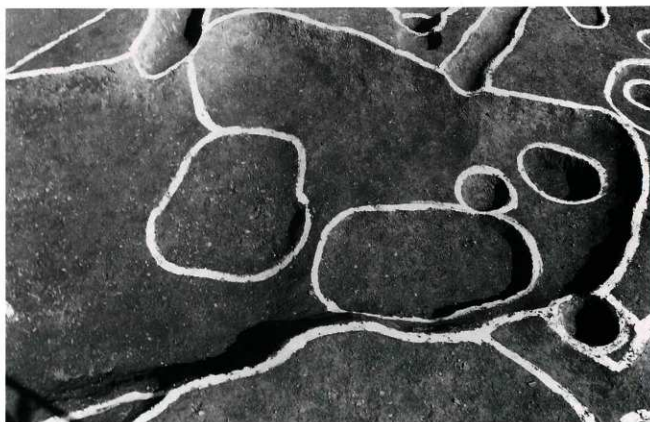
(1) SZ5西溝土層（土層からは自然堆積で、方台部よりの盛土の流入は認められない。北東より）



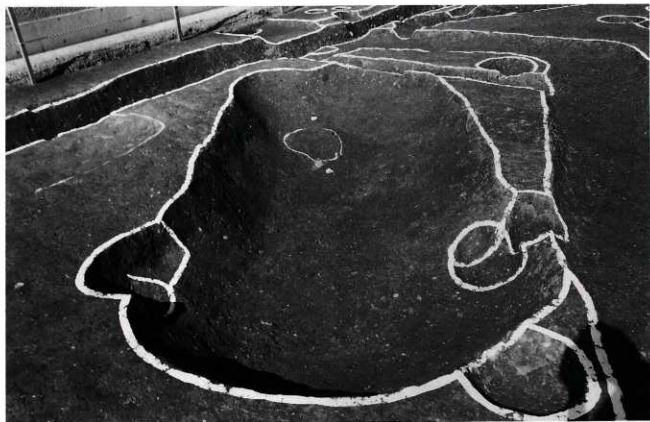
(2) SZ5南溝（SZ8の北溝と重複する。溝内土坑が認められる。北西より）



(1) SZ 5 南溝内土坑（不定形の土坑が2箇所が確認できた。木棺の痕跡は確認できなかった。北東より）



(2) SZ 5 東溝内土坑（不定形の土坑が2箇所が確認できた。木棺の痕跡は確認できなかった。西より）



(1) S Z 5 西溝焼土 (北半部分の底にあまり良く焼けていない焼土が確認できた。南東より)

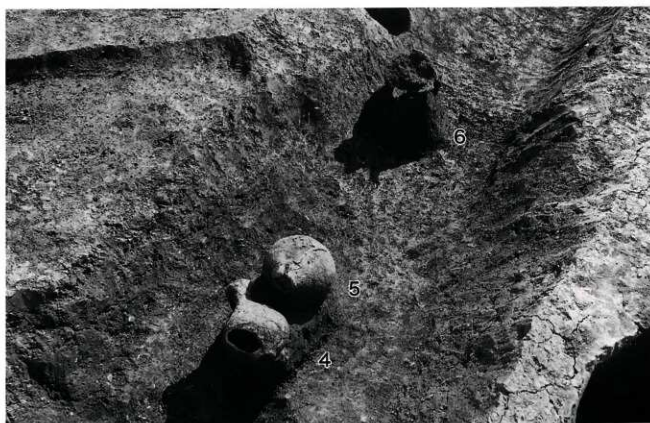


(2) S Z 5 南溝出土土器 (No 1・3の小型壺やNo 2の脚付鉢が底からやや浮いて出土した。北東より)



(1) S Z 5 南溝出土土器

(小型壺は完形率が高いが、割れて出土した。脚付鉢はほぼ完形品で出土した。北西より)



(2) S Z 5 南溝出土土器

(壺が主体で、完形率が高いNo 4・5と、割れて出土したNo 6が確認できた。北東より)



(1) S Z 5 南溝出土土器 (ほぼ完形率のNo 4、口縁部が欠損するNo 5が見られた。北西より)



(2) S Z 5 南溝出土土器 (No 6の壺は破片で出土した。北西より)



(1) SZ6

(SZ5東溝と西溝を連結した弥生中期の方形周溝墓である。四隅に陸橋を持つものであろう。南西より)



(2) SZ7

(SZ8東溝と西溝を連結した弥生中期の方形周溝墓である。四隅に陸橋を持つものであろう。南西より)



(1) S Z 7西コーナー部（陸橋が認められる。北溝はS Z 6南溝と共有関係にある。西より）



(2) S Z 7西溝土層（土層からは自然堆積で、方台部よりの盛土の流入は認められない。
S Z 8東溝と重複するが、明確な切合関係は確認できない。南東より）



(1) SZ7西溝出土土器

(完形率の高い小型壺のNo 3、破片で出土したNo 1・2の壺と蓋が見られた。南東より)



(2) SZ7西溝出土土器 (No 1は壺、No 2は甕であり、何れも底よりやや浮いて破片で出土した。西より)



(1) SZ7西溝出土土器

(ほぼ完形率であるが、口縁部が欠損するNo 3の小型壺が底からやや浮いた状態で出土した。西より)



(2) SZ8

(SZ7西溝、SZ5南溝と連結した弥生中期の方形周溝墓である。四隅に陸橋をもつものであろう。南西より)



(1) SZ8 (各辺の溝が連結したりするので、連結しない西溝の幅は狭い。南より)



(2) SZ8南溝土層 (土層からは自然堆積で、方台部よりの盛土の流入は認められない。北東より)



(1) SZ 9 (SZ 5 北溝と連結した弥生中期の方形周溝墓である。四隅に陸橋をもつものであろう。南東より)



(2) SX 1・SD 36

(SX 1 は弥生後期の幅広い溝状遺構、SD 36 は江戸末期～明治時代の区画溝である。西より)



(1) SX2 (SX1と同様な弥生後期の幅広の溝状遺構であろうか。東より)



(2) SX2 (古墳前期の方形区画溝SD39と切合関係にあり、SX2のほうが古い。南西より)



(1) S D33

(江戸末期～明治時代の区画溝である。遺物がほとんど出土しないため畑地の排水用溝と思われる。南より)



(2) S K47 (弥生後期の不定形の大型土坑である。土器片がまとめて出土した廃棄土坑か。西より)

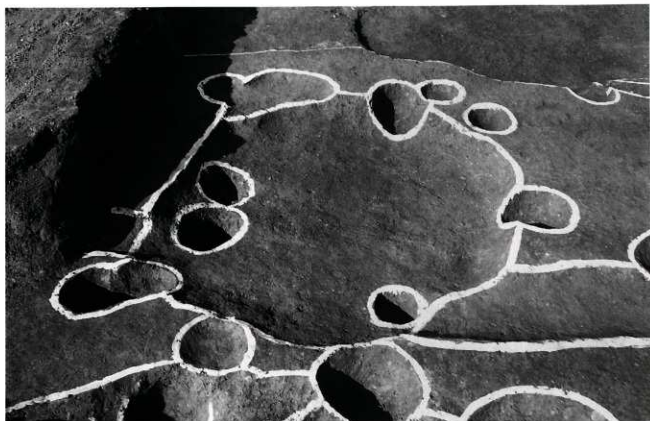


(1) SK52

(弥生後期の不定形の土坑である。土器片はあまり出土しないが深いため貯蔵用土坑であろうか。東より)



(2) SK54 (弥生後期の不定形の大型土坑である。土器片がまとめて出土した廃棄土坑であろうか。西より)



(1) S K 58 (弥生後期の不定形の大型土坑である。土器片がまとめて出土した廃棄土坑であろうか。東より)



(2) S K 59

(古墳中期の完形率の高い甕が出土した。埋納遺構か貯蔵穴と思われる。付近にはS B 7が存在する。西より)



(1) S P 73 (古墳後期の須恵器の坏身と土師器の坏が完形品で出土した。
埋納遺構であろうか。付近にはS B 7が存在する。西より)

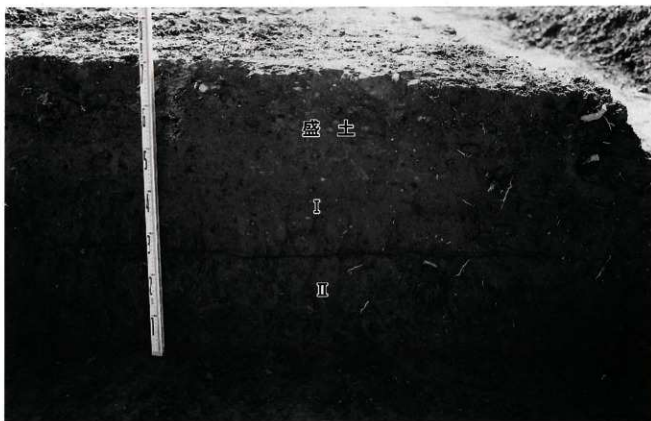


(2) S P 73出土土器 (古墳後期のNo 1は須恵器の坏身は一部欠損、
土師器の坏でNo 2～4・6が完形品、No 5は破片で出土した。)



(1) SP89

(古墳後期の土師器の鉢が破片で出土した。付近には堅穴住居はないが、貯蔵穴とも思われる。東より)



(2) 南壁中央部分土層 (遺物を多く含む厚さ30cmの包含層が南端部分に良好に確認できたが、北半部分では包含層は存在しなかった。北より)



(1) 重機による表土掘削作業
(ほとんど包含層が存在していなかったため、遺構確認面まで掘下げることができた。)



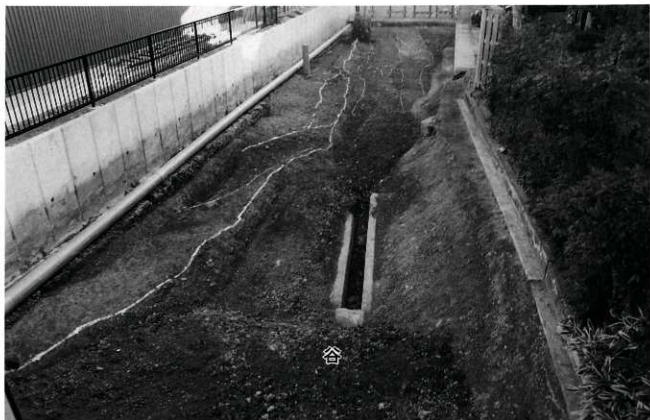
(2) ラジコンヘリによる写真撮影と測量作業風景



(1) 第56次北発掘調査区空中写真全景 (中央に現代法多道が確認できた。一部中世の溝も確認できた。南より)



(2) 第56次北発掘調査区空中写真全景
(右側に昭和期まで存在した谷地形が検出された。左側には現代法多道が確認できた。上が西である。真上より)



(1) 第56次北発掘調査区全景（手前が谷地形で、左側に遺構が見られる。現代の法多道は谷地形に降るように検出され、側溝が確認できた。右側の生垣中には法多山の町石が残されている。北より）



(2) S D29（中世の排水用溝で、谷地形により切られている。南西より）

報告書抄録

フリガナ		カケノウエイセキ				シャシンズハンベン							
書名		掛之上遺跡51・54・55 写真図版編											
副書名		袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書19											
編集著者名		松井一明											
編集機関名		袋井市教育委員会											
所在地		〒437-1192 静岡県袋井市浅名1028番地 ☎0538-23-9269											
発行年月日		2007年3月26日											
フリガナ 所取遺跡名		カケノウエイセキ 掛之上遺跡											
フリガナ 所在地		シズオカケンフクロイシタカホ.カケノウエ 静岡県袋井市高尾掛之上											
コード		北緯		東経		調査期間		調査面積		調査原因			
市町村		遺跡番号		34° 44′ 24″		137° 55′ 53″		20060801 ～ 20070326		1343.0㎡		袋井市駅前第二地区 土地区画整理事業に 伴う区画1・2・4・ 5・7号線道路建設・ 民地造成	
22216		151											
所取遺跡名		種別		時代		主な遺構		主な遺物		特記事項			
掛之上遺跡		集落跡		弥生時代 中・後期 古墳時代 後期 奈良時代 近世		竪穴住居跡 方形周溝墓 土坑 竪穴住居跡 土坑 区画溝 区画溝 土坑 地割溝		土器・石器 土器（土師器・須 恵器） 須恵器 陶磁器・かわらけ		弥生時代中・ 後期大方形周 溝墓群 有力集落 郡衛正倉院			

袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書19

掛之上遺跡 51・54・55

— 写真図版編 —

発行年月日 2007年3月26日

編集・発行 袋井市教育委員会

袋井市役所都市建設部区画整理課

〒437-1192 静岡県袋井市新屋1-1-1

印刷 松本印刷株式会社

〒437-0013 静岡県袋井市新屋4丁目5-2